

「家がいいね」 第147号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2016. 8. 8

限りのいのち 今を盛りと 鳴き尽くせ

暦は立秋を過ぎました。残暑お見舞い申し上げます。まだ日の出前、早起きの妻が私を起こしに来ました。何かと眠い目をこすりつつ、近所の林の境のフェンスを見に行きました。脱皮したばかりの蝉が静かに翅を広げつつありました。白い体に淡い色の羽衣がふるえるようでした。日が昇る頃には、体もしっかり乾き、樹液を求めて飛んでいったでしょう。何年かの地中暮らしの後に7日ほどもない生活を終える覚悟に驚かされます。

人も限りある命と知る時、普段の何気ない生活が、光輝き愛おしく感じる体験をするようです。

柳田邦男著の「『死の医学』への序章」1986年を読み直して、再び驚きました。30年経ち、緩和ケアの技術こそ進みましたが、いのちの限りを生きる人を支える手立ては、まだ遠い道程です。

草花は動かないの？

強い日差しの中、植物は耐えて、花を咲かせます。間もなくお盆のお墓参り、お供えの花も大変ですね。百年刻みに時間を遡ると、植物は自在に移動しているのではと考えます。数百年



前、墓石はあったのでしょうか？ ただ土に還るだけという野辺の送りの時代を想像しています。

兵(つわもの)どもが夢のあと！

サミットの際に、28億円も投じたメディアセンターは3日も使いませんでした。その解体を早くも実施と報道があり、往診の帰り道に立ち寄ったの撮影です。解体費用が3億円。あわせて31億円が三重のため(いや見栄のため)に使われた？ 生活を支えるお金とは次元が違いますね。



こちらも31億円が付け足されたようです

先月末の新聞に、市議会でも伊勢病院の建築費をめぐる紛糾があったと報道されました。計画当初は70億円、基本設計時に114億円、今年の見積もりが145億円と上がる一方です。なぜ？

もし自分の家の新築なら倍増を黙認するはずがありません。これはマズイと見送りも考えますね。

さらに伊勢市を含む10年後の地域医療構想では、全体の病院の役割分担と整理が求められています。現在の伊勢病院の機能が将来も保障される計画ではありません。拙速で作らず、再考察を！

お休みをいただきます

お盆期間の休診

8月13日(土)～16日(火)

研究会への出張での臨時休診

9月3日(土)、9月24日(土)

この期間も、在宅患者さんへの対応はいたします。

☆「聞き書き学校総会」長崎 9月3日～4日

人が亡くなり、家族の記憶が途絶えるのは寂しいことです。元気なうちから話を書き留めるボランティア活動が継続中。全国各地の活動交流会

☆黒田裕子記念フォーラム 9月24日～25日

がんでも認知症でも、住み慣れた地域で暮らすための町づくりを考える 市民参加で神戸市にて (日本ホスピス・在宅ケア研究会の主催)



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可